

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		竣工段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
0 建築物の環境品質								3.5
Q1 室内環境			0.40					3.6
1 音環境		3.6	0.15	-	-			3.6
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-			
1.1.1 暗騒音レベル		3.0	1.00	3.0	-			
1.1.2 設備騒音対策		-	-	-	-			
1.2 遮音		4.2	0.40	-	-			
1.2.1 開口部遮音性能	開口部の仕様をT-2とした。	5.0	0.60	3.0	-			
1.2.2 界壁遮音性能		3.0	0.40	3.0	-			
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-			
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-			
1.3 吸音	天井:岩綿吸音板、床:カーペット を使用した。	4.0	0.20	3.0	-			
2 温熱環境		3.3	0.35	-	-			3.3
2.1 室温制御		3.6	0.50	-	-			
2.1.1 室温設定		3.0	0.38	3.0	-			
2.1.2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-			
2.1.3 外皮性能	Low-eガラス、押出成型セメント板を使用した。	4.0	0.25	3.0	-			
2.1.4 ゾーン別制御性	インテリア・ベリメータを別途とし、冷暖フリーとした。	4.0	0.38	3.0	-			
2.1.5 温度・湿度制御		-	-	-	-			
2.1.6 個別制御		-	-	-	-			
2.1.7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-			
2.1.8 監視システム		-	-	-	-			
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	-			
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	-			
3 光・視環境		3.5	0.25	-	-			3.5
3.1 昼光利用		3.0	0.30	-	-			
3.1.1 昼光率		3.0	0.60	3.0	-			
3.1.2 方位別開口		3.0	-	3.0	-			
3.1.3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	-			
3.2 グレア対策		3.0	0.30	-	-			
3.2.1 照明器具のグレア		-	-	-	-			
3.2.2 昼光制御		3.0	1.00	3.0	-			
3.3 照度		3.0	0.15	-	-			
3.3.1 照度	照度は750lx以上とした。	3.0	1.00	3.0	-			
3.3.2 照度均斉度		-	-	-	-			
3.4 照明制御	1スパンごとの制御が可能であり、かつ、端末で制御可能とした。	5.0	0.25	3.0	-			
4 空気環境		4.4	0.25	-	-			4.4
4.1 発生源対策		5.0	0.50	-	-			
4.1.1 化学汚染物質	各部分に、F 及び規制対象外、低VOCの建材を使用。	5.0	1.00	3.0	-			
4.1.2 アスベスト対策		-	-	-	-			
4.1.3 ダニ・カビ等		-	-	-	-			
4.1.4 レジオネラ対策		-	-	-	-			
4.2 換気		3.6	0.30	-	-			
4.2.1 換気量	基準法及び建築物衛生法を満たす換気量の1.4倍以上を確保した。	5.0	0.33	3.0	-			
4.2.2 自然換気性能		3.0	0.33	3.0	-			
4.2.3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	3.0	-			
4.2.4 給気計画		-	-	-	-			
4.3 運用管理		4.0	0.20	-	-			
4.3.1 CO ₂ の監視		3.0	0.50	-	-			
4.3.2 喫煙の制御	ビル内を禁煙とし、喫煙室を設けた。	5.0	0.50	-	-			
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-			3.8
1 機能性		3.6	0.40	-	-			3.6
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-			
1.1.1 広さ・収納性		3.0	0.33	3.0	-			
1.1.2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33	3.0	-			
1.1.3 バリアフリー計画		3.0	0.33	3.0	-			
1.2 心理性・快適性		4.0	0.30	-	-			
1.2.1 広さ感・景観	天井高を2.8mとした。	4.0	0.33	3.0	-			
1.2.2 リフレッシュスペース	喫煙室およびリフレッシュスペースを設けた。	4.0	0.33	3.0	-			
1.2.3 内装計画	建物全体のコンセプトを決め、それに基づいた内装計画とした。	4.0	0.33	3.0	-			
1.3 維持管理		4.0	0.30	-	-			
1.3.1 維持管理に配慮した設計	各種仕上の選定の際、維持管理しやすい建材を採用した。	4.0	0.50	-	-			
1.3.2 維持管理用機能の確保	清掃員控室、清掃流し、倉庫など、十分な機能を確保した。	4.0	0.50	-	-			
2 耐用性・信頼性		3.6	0.31	-	-			3.6
2.1 耐震・免震		3.8	0.48	-	-			
2.1.1 耐震性	必要保有水平耐力の約1.3倍を有している。	4.0	0.80	-	-			
2.1.2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.7	0.33	-	-			
2.2.1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-			
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	アルミカーテンウォール、押出成型セメント板などを使用した。	5.0	0.23	-	-			
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	石膏ボード+EP、岩綿吸音板、タイルカーペットを使用した。	5.0	0.09	-	-			
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔	屋外、多湿箇所にはステンレス鋼板製を使用した。	4.0	0.08	-	-			
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要な用途の上位3種のうち、2種以上にB以上を使用した。	5.0	0.15	-	-			
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.23	-	-			

2.3 適切な更新			-	-	-	-	
2.4 信頼性			3.0	0.19	-	-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			4.3	0.29	-	-	4.3
3.1 空間のゆとり			4.6	0.31	-	-	
1	階高のゆとり	階高:1階4.2m、基準階4.0mとした。	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率は0.2。	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり		荷重4500N/m2以上とした。	5.0	0.31	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.6	0.38	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性	縦系統はEPS内、横系統はOAフロア内に敷設。	5.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性	縦系統はEPS内、横系統はOAフロア内に敷設。	5.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース	空調屋外機の予備スペース、キュービクルの予備スペースを有す	4.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.1
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		低層部の高さを抑え、緑地を設け、沿道から景観に配慮した。	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.7
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.8
1 建物の熱負荷抑制		PAL値225.4	4.0	0.30	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用			3.5	0.20	-	-	3.5
2.1	自然エネルギーの直接利用	自然換気パネルにより通風を確保した。	4.0	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化		ERR=25	4.0	0.30	-	-	4.0
4 効率的運用			3.5	0.20	-	-	3.5
4.1	モニタリング	主要な用途別エネルギーの把握、分析、ベンチマーク比較が可能。	4.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.6
1 水資源保護			3.4	0.15	-	-	3.4
1.1	節水	定流量弁の洗面器、節水型便器、擬音装置等を採用した。	4.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水再利用		3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-	
2	雑排水再利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.9	0.63	-	-	3.9
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.25	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.21	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	磁器質タイル、節水型便器、消火器等で認定品を採用。	5.0	0.21	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	OAフロア、システム天井、躯体と仕上げについてはLGS工法を採	5.0	0.25	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.2	0.22	-	-	3.2
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		3.3	0.68	-	-	
1	消火剤	ハロン消火剤を使用していない。	4.0	0.33	-	-	
2	断熱材		3.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.6
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率が、一般の建物に対して75%	4.2	0.33	-	-	4.2
2 地域環境への配慮			4.0	0.33	-	-	4.0
2.1	大気汚染防止	燃焼機器を使用していない。	5.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善	風環境把握、建物配置、緑化、自然換気、設備計画など。	4.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			2.8	0.33	-	-	2.8
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			2.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	曇光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		1.0	0.30	-	-	